

啓北商業高等学校学校評議員会便り

令和4年
9月30日
発行

令和4年度市立札幌啓北商業高等学校 学校評議員のご紹介 (五十音順)

啓北商業高等学校同窓会会長	池田 一夫 様
「軟石や」代表	小原 恵 様 (欠席)
啓北商業高等学校PTA会長	廻川 光一 様
札幌大学特命教授 (本校前校長)	鈴木 恵一 様 (欠席)
南区石山まちづくりセンター所長	吉山 直子 様
啓北商業高等学校 堀野校長、野口教頭、坪井事務長	以上8名



去る7月16日(土)本校校長室にて「第1回学校評議員会」を開催し、学校評議員の皆様よりご意見・ご助言をいただきました。

会議内容 ～要旨抜粋～

1 学校長挨拶

新型コロナウイルスのワクチン接種がすすみ、様々な社会活動が再開し、本校も限定的ではあるが、学校祭の一般公開を行い、PTAバザーも行っている。

また、「学びを止めない」から「学びの質を高める」というキャッチコピーのもと、文科省も大きく舵を取り始めた。

そして、衝撃的だったのは本校と藻岩高校との発展的再編についてだと思われる。啓北商業高校の新しい道を探るといことで教職員も準備を始めているところであると、本校の概要を説明しました。

2 本校の概要説明

(1) 学校運営について

<野口教頭>

学校改革検討委員会が中心になってまずスクールミッション^{※1}を定め、次にどのようにスクールポリシーを定めていくかという手順を示します。

① グラジュエーションポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)

学校改革検討委員会で検討

② カリキュラムポリシー (教育課程編成及び実施に関する方針)

教育課程委員会で検討

③ アドミッションポリシー (入学者の受け入れに関する方針)

入選委員会で検討

これらを学校運営委員会(各分掌の部長や学年主任等)で再検討し、職員会議で決定しました。

また、学校評議員会・PTA・生徒会において、スクールポリシーが実行されているかを学校評価アンケートを行い、検証しました。

スクールミッション・・・「札幌の未来を啓(ひら)く人」

札幌で将来活躍する人材の育成を目指すということを定めています。

① 商業科目だけでなく、本校の全ての教育科目を通し、マネジメント(自己管理)能力を身に付け、

多様な社会の中で自ら新たな価値を創造できる人材を育成する学び

- ②学校と地域で作る学びに主体的・積極的に取り組み、課題を探究しながら仲間とともに歩み、成長できる人材を育成する学び
- ③札幌の地域資源を活用し、持続可能な地域社会の発展にビジネスの視点から貢献できる人材を育成する学び

※1 スクールミッション

3つのスクールポリシーを策定する前提として、高等学校に期待されている社会的役割等のこと。

校内研究会の流れ

教職員全体がスクールミッション、スクールポリシーの理解を深め、今後の教育活動の指針として活用していくことを目標とし、以下の流れで実施しました。

スクールポリシーに掲げた資質・能力を育成するために具体的にどのような教育活動をしていくべきかをグループに分かれて意見を出し合いました。

- ①各教科・科目で行っている学習活動のうち、10の資質・能力につながる学習活動を付箋に書き出す
- ②各グループ（年代別）に配布された表に、各自で書いた付箋を10の資質・能力に分類して貼り付け、互いの考えを共有する。必要に応じて、グループ内で質疑応答を行う。
- ③現状で不足している資質・能力を各グループ1、2個挙げ、その資質・能力を育成するためにどんな学習活動が効果的か議論し、新たな付箋に書き出す。
- ④完成したポスターを各教室に張り出し、それぞれ自由に見て回る。その後、各班に戻り、他の班の内容を共有・フィードバックする。

以上の内容で活発な研修会となりました。校長室を出た廊下にその成果をまとめたポスターを掲出しましたので、後程ご覧ください。

(2) 80周年記念事業について

<野口教頭>

去年、感染症対策が厳しく記念行事が大々的に出来ませんでした。以下の内容で事業を実施しました。

- ①記念誌発行
- ②記念品の進呈（クリアファイル）
- ③記念イベント 令和3年9月21日（火）にグラウンドで人文字作成、煙火
- ④周年記念冠行事 学校行事名に「80周年記念」を付す
- ⑤玄関前横断幕

以上の事業、イベントを行うことが出来ました。

(3) 学校関連携事業主管校について

<野口教頭>

SCS（スタートアップシティ札幌）

これは、秋元市長が先頭に立ち、札幌・北海道から、世界を変えるスタートアップ（起業）する企業を支援するプロジェクトです。この一環としてSCSスタートアップスクールU-18があります。これは、経済観光局と教育委員会が主催しており、本校が主管校として初めて実施することとなりました。

本校が中心となり高校生・高専生（3年生まで）を対象に募集しました。本校からは10名ほど参加

予定です。本校の学びを他の学校の生徒と共有して、スタートアップスクールを盛り上げていきたいと考えています。

(4) 生徒の現状について

<野口教頭>

札幌市教育委員会では
令和3年度・・・「学びを止めない」
令和4年度・・・「学びの質を高める」という姿勢を示しています。

本校では、堀野校長が事あるごとに、「コロナだから〇〇ができないではなく、出来ることは何かを自分たちで考えて、積極的に実行していきましょう。」と、生徒や教職員に呼び掛けております。

今回の学校祭「啓北ナツイロセカイ」において、「感染対策をしながら、今できることを実施し、楽しむ努力を！」ということで、学校によっては、保護者を含む外部の方を校内に入れることが出来ない中、保護者1名の入校を可としました。また、感染対策としてキッチンカーを導入するなどの工夫をしました。

また、1日目ステージ発表では、生徒会が考えて時差登校を実施し、学年ごとにステージ発表を観覧することにより感染対策を行いました。

(5) 部活動の現状

<野口教頭>

感染症対策を行いながら活動し、活動時間は平日2時間以内、土日3時間以内です。土日のいずれかは原則休養日とし、大会が近いため練習を行わなければいけない時は、別な日に休養日を振り替えています。

また、制限がある中で優秀な成績を収めています。女子バレーボール部、陸上部、テニス部、アーチェリー部、ソフトテニス部が全道大会に出場、演劇部、僕部が全国大会に出場を果たし頑張っております。

(6) 学校長より

SCSは、今年度、本校が主管校となり学校間連携指定事業として札幌市立高校7校で行っています。学校間連携指定事業には「ちえりあ」開講講座を受けて単位認定をしたり、「アニマドレー」という食農体験、グローバルリーダー育成事業、昨年度本校の生徒も参加していた「まなびまくり社」という高校生たちが地域の課題にどのようなアイデアで取り組むかというものなど、やりたいことを学校の枠を超えて他校の生徒、社会人と一緒にチームを組んで、自分たちの夢を実現する取り組みを行う事業です。今年新たに起業家育成プログラムが追加され、本校が主となって行っております。

GIGAスクール構想^{※2}がコロナ対策により前倒しとなりました。昨年、全ての教室にプロジェクターが設置され、GIGAスクール予算と感染症対策予算により全教員にクロムブックが配布されました。校内のWi-Fi環境が全て整い、校内ほぼどの教室でもWi-Fiに繋がるようになりました。

また、昨年の12月から本校の職員会議はウェブ上で行っています。教員は職員室やその他の部屋で会議に参加することが出来ることから感染症対策に役立っています。

今年4月の1年生からBYOD^{※3}、(1人1台端末)が始まりました。札幌市立高校生は全員同じタブレットを購入(使用)しています。毎日学校に持参し、授業やGoogleクラスルームを利用した教員との連絡、感染症対策である体調管理を行うことが出来ます。

発展的再編成については、新聞報道以上のことはまだ決まっておらず、令和9年度に藻岩高校の敷地に新校舎が建設されます。全体で8間口、単位制の普通科、単位制の未来商学科というところまでは決

まっています。

※2 GIGAスクール構想

児童生徒1人1台端末と、学校における高速大容量のネットワーク環境等を一体的に整備することにより、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現することを目的とした取組。

※3 BYOD

生徒が学校にパソコンやタブレットを持ち込み、学習すること。

3-1 各評議員から①

<池田様>

スクールミッション、スクールポリシー、SCS等様々なことを行っていますが、先生方は授業を行いながら活動しているということですね。

<堀野校長>

スクールミッションの再定義については以前から学校改革検討委員会でこれからの啓北の学びをどうするかずっと考えていたことなので、これがスクールミッションと合致したということです。

<池田様>

SCSについて、具体的にどのような活動ですか。

<堀野校長>

本校の1年生2年生の授業で課題研究等の中で先生方が生徒へ投げかけ、生徒がやってみたいと返答してくれました。これは課外活動であり、授業の取り組みではありません。

<廻川会長>

定員30名とありますが、他校と併せて30名ですか。

<堀野校長>

他校と併せての定員です。札幌市立高校ポータルサイトの広報部分にも掲示されていますし、市立高校以外からも参加可能です。

今回の定員は30名となっていますが、高校では1年間で35時間分の授業に参加することにより1単位が認められます。これに相当する35時間分のプログラムをやる時に枠が30名程度になるということです。本校では、学校外の学修の単位認定をしていませんので、これに全て参加したからといってプラス1単位とはならないわけですが、「アニマドール」や「ちえりあ」については学校によってこれを増単位として認めている学校もあります。

今後は、先生方には是非学校外の学修の単位認定についても取り組んでほしいと考えています。外に出て休みの日や夕方以降に何か行ったとしても、自分のプラスにはなりますが、単位に認められるとモチベーションも変わってくると思われます。

<廻川会長>

例えば、パンの製造や企画に学生に携わってもらうような販売戦略等を学ぶこともありますよね。

<堀野校長>

材料や製造過程で高校生の方が関われば、より社会に役立つと思います。これが商業高校の強みでもあります。

<野口教頭>

普通科の生徒と交流し、学ぶこともあります。

また、起業ということとなるとハードルが高く感じるかもしれませんが、経営者の視点を学べれば、就職試験の際などに、企業の考えを理解することにも役立つと思われます。

3-2 各評議員から②

<池田様>

与えられた授業だけを行う昔と比べ、今の生徒は様々な学ぶ機会があります。今後も多くの生徒がそのような機会に参加して、校内に持ち帰り広げてくれればと思います。これからが気になりますので、ぜひまたこれらの教育活動の続きを教えていただきたいです。

また、7割程度の生徒が進学しているとのことですが、奨学金を利用する生徒がかなり多いようです。大学等を卒業して、借りた奨学金を返すにあたり、ありがたみを感じてくれたり、自分の力で何とかするという意識を持ってくれればと思います。

<廻川会長>

「コロナだから〇〇ができないではなく、出来ることは何か自分たちで考えて、積極的に実行していきましょう。」と、3年間PTA会長をさせていただいていますが、学校祭について1年目はコロナで何も出来ず、昨年は生徒達で学校祭を行い、今年はPTAも参加しています。また、外にキッチンカーを呼んだり、生徒たちが考えて、積極的に活動し、感染症対策についても深く追求して行っていると学校を回って感じました。これは学校の教育活動の方針に沿った指導が出来て、生徒と先生が向き合っているといます。是非、継続していただいて、もしも困ったときは、PTAとして協力し、地域のOBからもご協力いただいて、生徒を見守っていただきたいと思います。

<吉山様>

私も久しぶりに啓北祭に来ました。入口にキッチンカーがあり、いつもとちょっと違う印象を受けました。しかし、中に入ると皆さんウェルカムな雰囲気を楽しそうで学校祭が行われて、よかったなあと感じました。まちづくりセンターと生徒が会う機会が最近は少なかったですが、夏祭りで吹奏楽やボランティアをお願いしたいと思っています。設営などで重たい物品がありますので、お手伝いいただくと助かります。

<堀野校長>

SCSの取り組みの様子についてですが、市立高校コンシェルジュという札幌市教育委員会から委嘱を受けて市立高校の活動を支える方々がいます。その方々が様々な活動取材して、これを市立高校ポータルサイトに随時アップしています。こちらで市立高校の活動や学校間連携指定事業についても掲載されています。

4 学校長挨拶

<堀野校長>

いただいたご意見を参考にし、これからの教育活動へ取り組んでいきますので、今後も引き続きよろしく願いいたします。本日はお忙しいところ、参加していただきありがとうございました。

以上が令和4年度第1回学校評議員会の報告になります。